

三、学園運営の寛と厳

出
会
い

島 本 正 則

学園長武田ミキ先生の全ては『武田ミキ人間教育論』に余すところなく語り尽くされ網羅されている。三十七年間、心配ばかりお掛けした私ごとき者が、学園長武田ミキ先生を語ることとは僭越至極、失礼極まりないことで辞退

すべきと考えたが、曲がりなりにも教師生活を終えようとする今、報恩の気持ちを込めて「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり。」と、回想しながら筆を執ることにした。

昭和三十一年、中国税理士会会長の増田威海先生が経営されていた広島地方唯一の経理学校専科で税理士受験をめざし勉学に励んでいた折、当時、珠算技能の最高資格であった全種目満点合格で広島商工会議所の会頭から伝達表彰を受ける機会があった。それが中国新聞に報道されたことで、当時、日浦中学校の校長先生であった松永新先生がご訪問くださり、課外で中学生に珠算を指導してもらえないかとのことであった。勿論、高校を卒業したばかりで、税理士受験に燃えていた時でもあり丁重にお断りしたが、夏休みの終わり頃に再度ご訪問くださり、学業に支障を来さない時間帯で指導してもらえないだろうかとの懇切丁寧なご依頼であった。

丁度、経理学校専科で教鞭をお取りになっていた珠算の恩師、小松寛先生に相談したところ、経理学校を卒業しても二三年は税理士事務所で勉強しなければ合格は難しい資格であり、息拔きのつもりで週二日程度、好きな「そろばん」を教えてもいいのではないかとのアドバイスをいただいたのが、同年九月からの課外講師の始まりであった。

経理学校卒業の目前、校長の増田威海先生から税理士事務所に入って勉強するも、学校に残って教師になるも、目的を忘れなければ同じであり、珠算授業を担当してくれとのことのお誘いをいただいた。

同時期、当時可部町長であった山田保氏から可部に女子高校が出来るので珠算を指導してくれないかとお声掛けをいただいた。紆余曲折はあったがお引き受けすることとなり、月曜から木曜の午前中は長束の経理学校、午後は税理士の受験勉強、金曜と土曜の二日は設立間もない広島県可部女子高等学校で教鞭を取ることとなった。

三、学園運営の寛と厳

時恰も、女専から編入した二年生（現在、同窓会副会長で活躍の太田、旧姓…福原さん）と新一年生、プラス女専の二年生に珠算を指導することになったが、当時の年齢は十九歳であり、生徒とはいえ二年生とは三歳しか年齢差が違わない訳で、今思うに図々しい教師ぶりであったと思ひ返している。

奉職することになった昭和三十三年三月、武田ミキ学園長先生に、山田保氏にも同席いただき面接したときの第一声が「非常勤講師であつても勉強しなさい。『検定』を受けて立派な教師になつてください。」であつた。当時、脊髄カリエスでベットに寝たきりの女性が熱っぽく話されたことを今でもはっきり覚えてゐる。

武田ミキ学園長先生が話された検定、すなわち、現在の文検制度はこの当時中断されており、教員免許状取得の為に法政大学通信教育部で受講することとなつた。昭和三十四年、商業科を併設することになり、横山勉氏（現、米国在住）と、広島経済大学教授、当時、経理学校専科で会計学をご指導になつていた小山威倫先生、三十二年の同期生で広島山陽高等学校理事・校長を歴任された秋岡修先生を専任でお迎えしたのであるが、私自身は、昭和三十六年三月末まで二足の草鞋の非常勤講師時代が続いた。

昭和三十六年四月、専任で勤務するようになった一番の原因は武田ミキ学園長先生の教育に対する真摯な姿勢であつた。三十二年からの四か年間は税理士受験勉強と大学通信教育、前半四日間の経理学校勤務と後半二日の可部女子高等学校勤務であつたが、昭和三十四年の商業科併設後は、学園長先生と顔を合わせるごとに「二足の草鞋では本当の教育は出来ない」「腰掛けて人間教育は出来ない」「自分は非常勤講師でお招きした専任の先生方に責任が持てますか」と熱っぽくご助言ご指導を頂戴したことを懐かしく思ひ出している。

武田ミキ学園長先生には、お声を拝聴する度に「勉強しなさい、教師は一生勉強ですから」と常にご指導いただ

いた。検定に挑戦しなさいとご指導いただいてから丸七年、法政大学も卒業させていただいた。その間、経済学部と法学部の両学部に学ばせていただいた。教員免許状は商業と社会の両方を頂戴することができ、珠算一芸に「商業」と「社会」という免許が華を添えたと心底、喜んでいただいた。ともすれば、横道に逸れそうな危なっかしい教員を「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」と常に叱咤激励、お導きいただいた賜物と有り難く心から感謝している。

昭和五十八年六月、珠算教育功労賞を総理大臣から受く。昭和六十年「広島県珠算史」を出版する。学長室にお持ちした折、涙を流しながら我がことのように喜んでいただいたことが昨日の如く思い出される。受賞と編纂、この幸せは、学園長武田ミキ先生の「教師は生涯学ぶ姿勢を持ち続けるのですよ」という尊い教えがあつたからこそである。

寝食を忘れて珠算部を指導し、日本一の選手を武田学園史に留めることもできた。当時の選手達は主婦になり、母になった今も度々わが家を訪問してくれる。教師冥利に尽きるこの幸せは、陰に陽にご教授いただき、わが子の如く愛情を持つて接していただいた学園長先生の御蔭といつも自分に言い聞かせている。

因みに、若き日の税理士は遠い昔となつてしまったが、教師に目覚めさせていただいた学園長武田ミキ先生との出会い、節目、節目で出会った多くの先生方を思うとき感無量、諸行無常の哀れさを感じざるを得ない。

残りの人生の指針を失つたことに一抹の寂しさを感じる昨今である。

合 掌